

I. 県土整備の概要

1. 和歌山県の地勢・気象

●面積

本県は本州紀伊半島の南西部にあって、北は大阪府、東は奈良県と三重県、南は熊野灘に接し、西は紀伊水道を挟んで徳島県と向かい合っています。東西約94km、南北約106kmに及び、総面積は4,724.65km²で、国土の1.25%を占めています。本県は古くから「紀(木)の国」と云われ、面積の大部分は紀伊山系を中心とする1,000m前後の山岳地帯で、高野山、那智山など古代から親しまれた山々が多くあります。

●河川

河川の多くが、これらの諸山脈に源を発し、流域を潤して紀州灘や熊野灘に注いでいます。

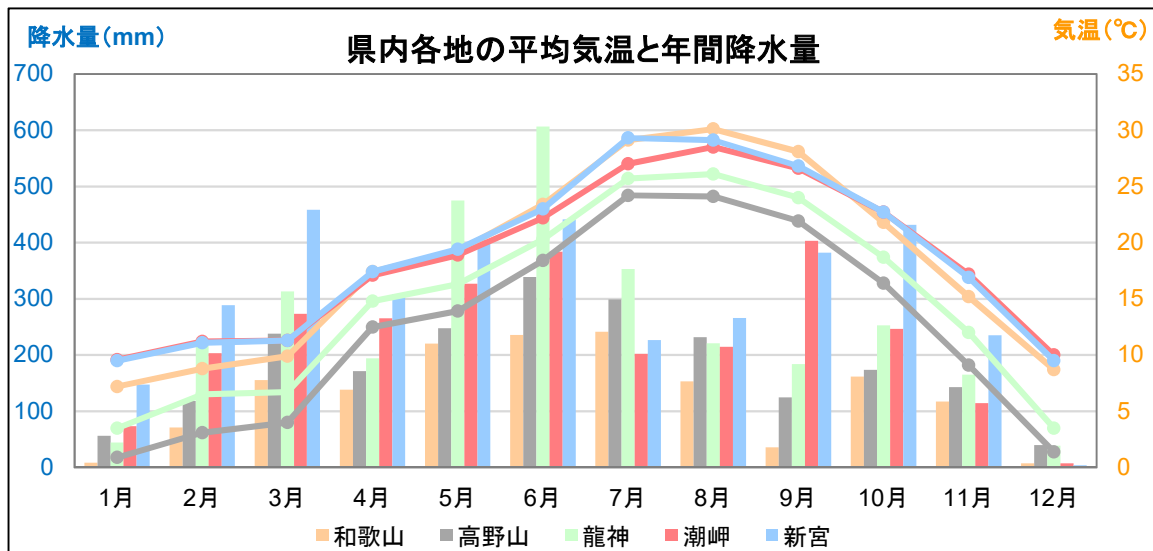
●海岸線

海岸線は、総延長約650kmに及びアス式海岸で、とりわけ潮岬を中心とした県南部の海岸は、黒潮に洗われ景勝に富んでいます。

●気候

和歌山市など県北部は瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて天気や湿度が安定しており、降水量も少なくなっております。

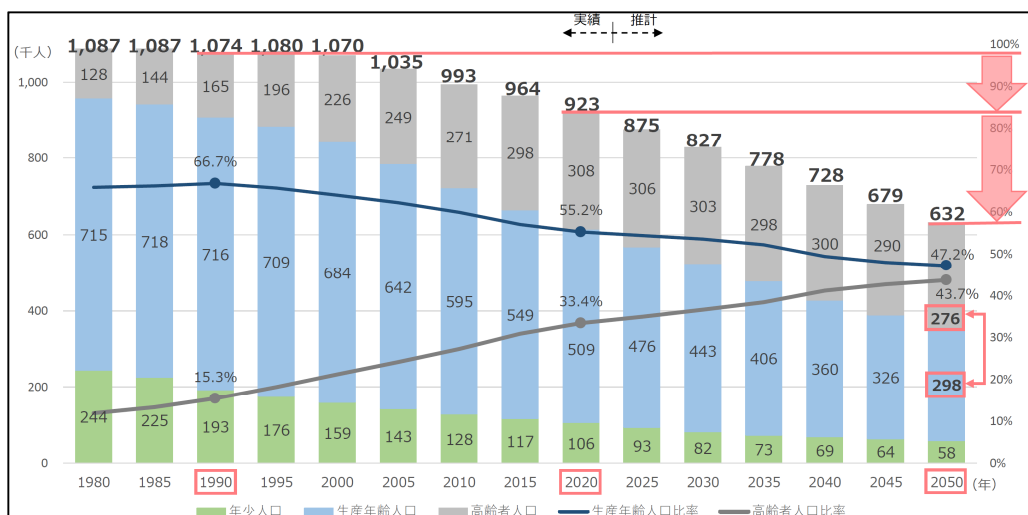
一方、県南部は太平洋式気候に属し、黒潮の影響を受け温暖で台風の影響を受けやすく、極めて降水量の多い地域もあります。また、日照時間は長く、夏は比較的涼しく冬は暖かい傾向がみられます。



2. 和歌山県の人口の見通し

本県における今後の人口減少のペースは、これまで経験したことのないスピードで進行し、2050年にはピーク時の約6割(現在の約7割)まで減少することが予測されています。

特に、生産年齢人口の減少が著しく、2050年には高齢者人口とほぼ同数まで縮小する見込みとなっており、建設業をはじめとする社会基盤整備の担い手の減少が予測されます。



3. 県土整備の現状等

道路

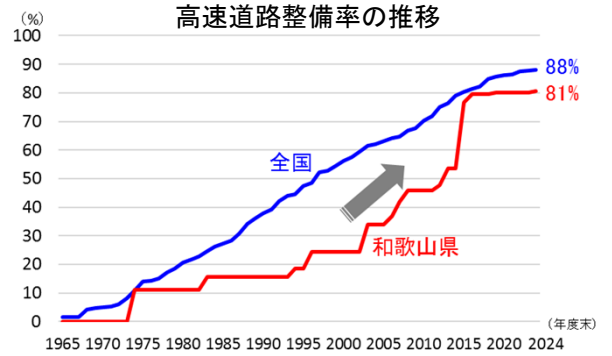
本県には、一般国道11路線、県道190路線、市町村道31,629路線の道路があり、改良率は、全国平均より低い状況です。

高速道路も、2015年紀の国わかやま国体の開催に合わせ整備率が大きく進展したものの、全国と比較すると未だ低い状況です。

和歌山県の道路の状況

		路線数	実延長(km)	改良率(%)
一般国道	国土交通省管理	3	344	100.0
	県管理	8	715	69.7
	計	11	1,059	79.5
県道	主要地方道	47	933	58.5
	一般県道	143	970	37.8
	計	190	1,903	48.0
一般国道+県道		201	2,962	59.3
市町村道		31,629	10,861	46.0
県管理道路(県管理国道+県道)		198	2,618	53.9
全国(一般国道+都道府県道)		13,794	186,089	78.0

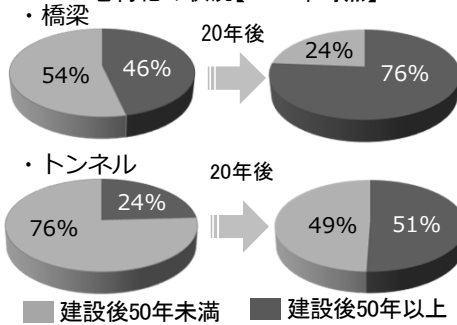
出典:道路統計年報2024(2023.3.31時点)



高度経済成長期に集中的に整備された橋梁、トンネルなどの重要な道路施設が、今後加速度的に老朽化していきます。

これらの施設の持続的な維持管理を実現するため、予防保全型メンテナンスへの本格転換に向けた対策を着実に進めていきます。

老朽化の状況【2025年時点】

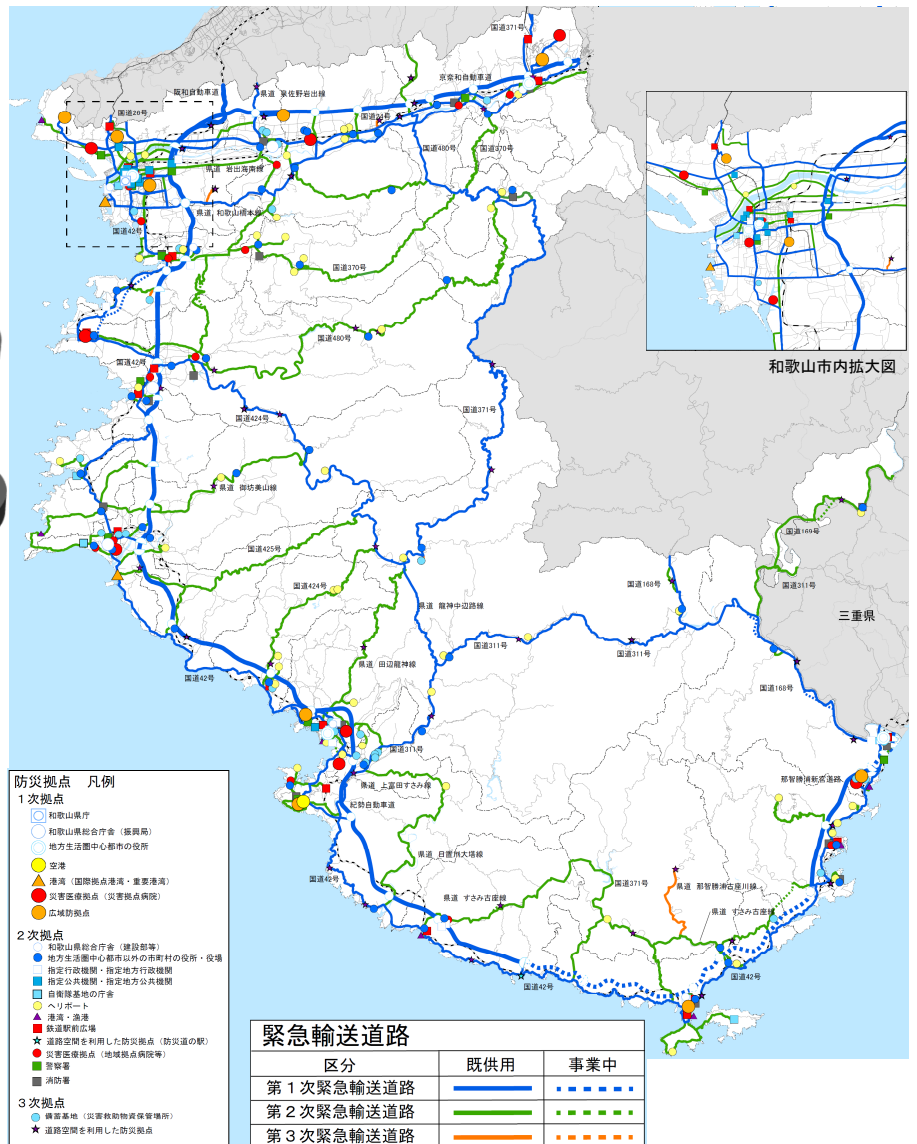


国道371号 紀見隧道
1969年供用(建設後55年)



和歌山阪南線 松江横断歩道橋
1968年供用(建設後56年)

和歌山県緊急輸送道路ネットワーク図 (2025.3時点)

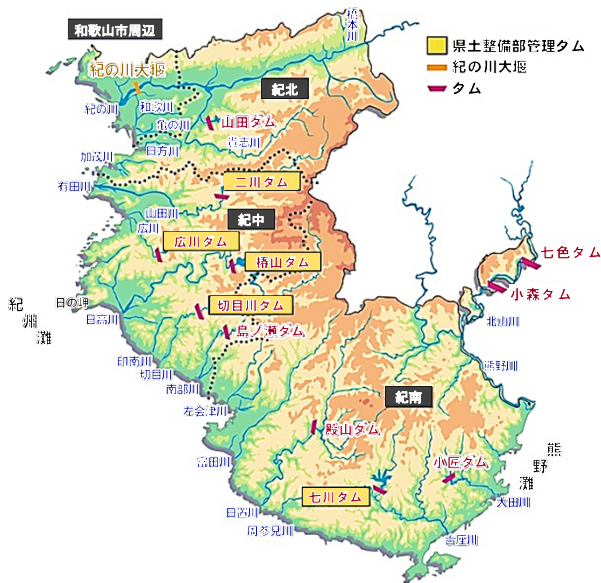


河川

本県には、2つの一級水系があります。大台ヶ原(奈良県吉野郡川上村)を水源として県北部を西流し、紀伊水道に注ぐ紀の川水系と、日本最多雨地帯の大峰山脈に源を発して県東部を南流し、熊野灘に注ぐ新宮川水系です。両水系には、134の一級河川と44の準用河川があります。一方、二級水系は85水系あり、317の二級河川と47の準用河川があります。さらに、単独水系には9の準用河川があり、準用河川は各水系合わせて100河川あります。一級河川は国と県が分担して管理しており、二級河川は県が、準用河川は市町村がそれぞれ管理しています。

年間降水量は、北部及び紀伊水道、紀州灘沿岸部では1,500～2,000mm程度、南部は2,000mm以上で山間部の南東斜面では3,500mmを超え、全国でも降水量の極めて多い地域となっています。

県の主要河川



年間降水量分布図



出展：気象庁データ（1991年～2020年）

和歌山県の指定河川

種 別		水系数	河川数	延長(km)
一級河川	国 管 理	2	4	65.5
	県 管 理	2	133	543.7
	小 計	2※ ¹	134※ ²	609.2
二級河川	県 管 理	85	317	1,422.0
合 計		87	451	2,031.2
準用河川	市町村管理	27	100	100.8

※1:国管理河川と県管理河川の水系が重複しているため

※2: 国管理4河川のうち3河川が県管理河川と重複しているため
(重複河川: 貴志川、熊野川、市田川)

ダム諸元

ダ ム 名	単 位	二川ダム	広川ダム	椿山ダム	切目川ダム	七川ダム
水 系 名	—	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
河 川 名	—	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
位 置	—	有田川町二川	広川町下津木	日高川町初湯川	印南町高串	古座川町佐田
形 式	—	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート
堤 高	m	67.4	53.5	56.5	44.5	58.5
堤 頂 長	m	223	166	236	127	154
堤 体 積	m ³	209,250	110,000	265,000	67,400	96,240
集 水 面 積	km ²	228.8	12.6	396.5	21.9	102.0
湛 水 面 積	km ²	0.86	0.20	2.68	0.28	1.79
総 貯 水 容 量	千m ³	30,100	3,500	49,000	3,960	30,800
有効貯水容量	千m ³	19,200	3,250	39,500	3,410	25,400
治 水 容 量	千m ³	14,400	2,550	35,500	2,400	20,000
不 特 定 容 量	千m ³	—	700	4,000	985	—
計画高水流量	m ³ /s	3,000	290	4,500	320	1,380
洪水調節量	m ³ /s	900	250	1,640	190	1,060
河口からの距離	km	38	12	55	23	27
管理開始年度	年度	1966	1975	1989	2015	1957
目 的	—	F・P	F・N	F・N・P	F・N・W	F・P

F: 洪水調節 N: 流水の正常な機能の維持 W: 上水道 P: 発電



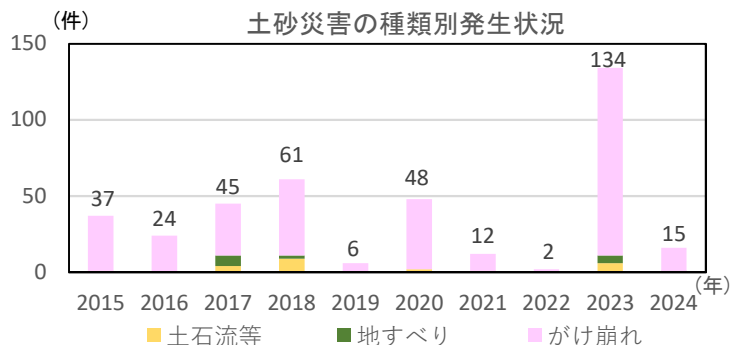
←日本一短い川 ぶつぶつ川(2008年10月21日 二級河川指定)

那智勝浦町の粉白地区を流れるぶつぶつ川は、飲めるほど良質な清水が沸々と湧き出る泉が、さらさらと流れる小川で、その長さはわずか13.5mしかありません。川底からぶつぶつと湧き出てくる様子からぶつぶつ川と呼ばれています。

砂防

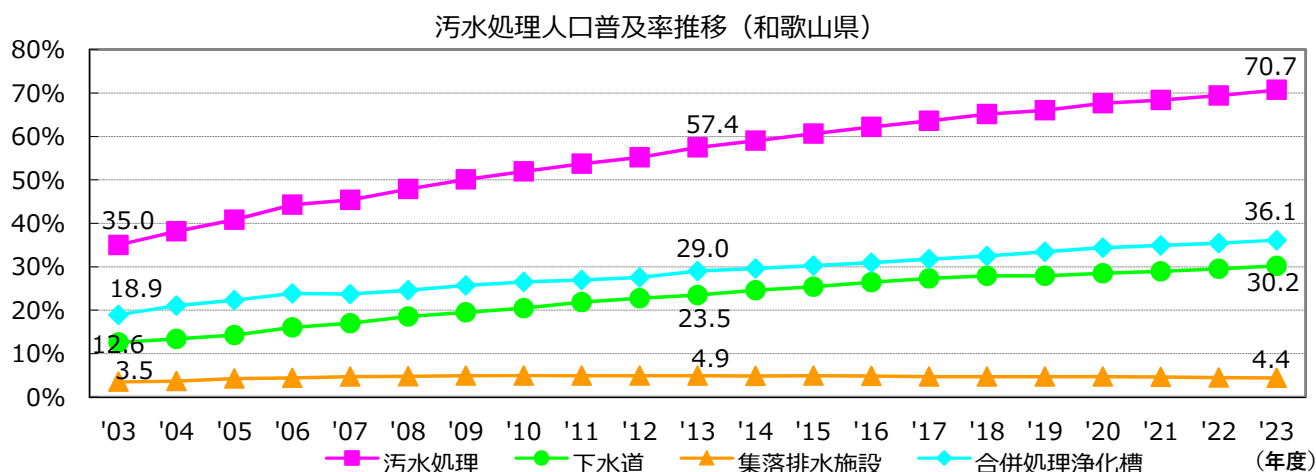
本県は県土の約80%が急峻で脆弱な山地におおわれている上に、全国有数の多雨地帯に位置することから、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が毎年のように発生しています。

このため、県では犠牲者ゼロを目指して、ソフト対策とハード対策が一体となった土砂災害対策を進めています。



污水处理

下水道、集落排水施設（農業集落排水、林業集落排水、漁業集落排水）及び合併処理浄化槽のそれぞれの特長を活かした効率的、効果的な污水处理施設の整備を推進しています。



都市公園

都市公園は、人々のレクリエーションの空間となるほか、都市の防災性の向上など様々な機能を持ち、快適で安全な生活を実現する上で必要不可欠なものです。都市の緑とオープンスペースの保全、創出からも、総合的かつ計画的に整備する必要があります。

県土整備部では7箇所の都市公園と3箇所の公園施設を維持、管理しています。

●都市公園の機能

- ・都市環境維持、改善の機能（気温の緩和、大気汚染の浄化）
- ・防災機能（避難場所、延焼防止等）
- ・景観形成機能（都市景観の形成等）
- ・健康、レクリエーション機能（運動、休養、環境学習等の場）

県土整備部管理の公園施設

公園施設名	所在地	供用面積	供用開始
秋葉山公園県民水泳場	和歌山市	2.65ha	2013.9.1
県営相撲競技場	和歌山市	0.33ha	2013.4.1
県立橋本体育館	橋本市	1.72ha	1999.9.13

県土整備部管理の都市公園

公園名	所在地	供用面積	公園種別	供用開始	主要公園施設
紀三井寺公園	和歌山市	17.66ha	運動公園	1964.4.1	陸上競技場、野球場、球技場、テニスコート、登はん場
和歌公園	和歌山市	43.66ha	風致公園	1895.12.28	健康館、万葉館、野外ステージ、万葉の小路、観海閣
河西緩衝緑地河西公園	和歌山市	31.49ha	緩衝緑地	1974.7.1	プール、多目的グラウンド、テニスコート
河西緩衝緑地湊緑地	和歌山市	2.95ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニスコート、ソフトボール場
河西緩衝緑地松江緑地	和歌山市	6.20ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニスコート
河西緩衝緑地西松江緑地	和歌山市	6.17ha	緩衝緑地	1993.4.1	体育館、野球場、サッカー場
河西緩衝緑地東松江緑地	和歌山市	5.62ha	緩衝緑地	2005.4.1	中央広場、みんなの原っぱ

港湾・漁港

海岸線約650kmに面している本県には、国際拠点港湾の和歌山下津港、重要港湾の日高港のほか、新宮港など13の地方港湾があり、人流面、物流面において海の玄関口として重要な役割を果たしています。地方港湾の中で由良港と勝浦港については、避難港にも指定されています。

本県ではこれらの港湾を活用し、クルーズ客船の誘致を行っています。県内におけるクルーズ客船の寄港回数は、新型コロナウイルス感染症の流行、拡大を受け、2020年度にはクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、2023年度には過去最高の22隻、2024年度は13隻が和歌山県に寄港しました。

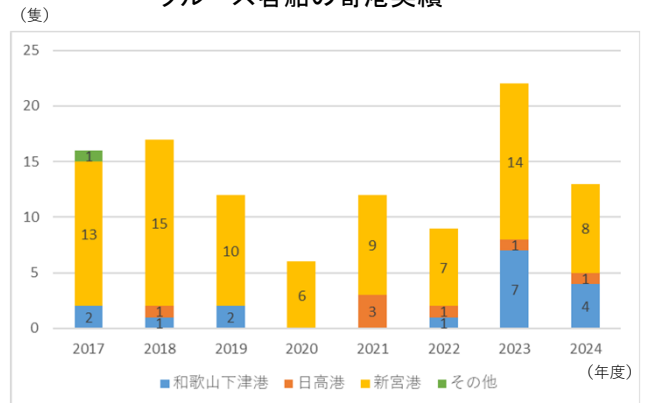
クルーズ客船の寄港は港を中心とした地域の賑わいを創出し、また地域経済を刺激する効果が大きいため、市町村及び関係団体と協力し、安全面を重視した受入体制の構築を重視しつつ、従来の制度を拡充した「クルーズ客船誘致助成制度」を活用し、引き続き誘致に取り組んでいます。

港湾の種類と数

	全国	和歌山県	備考
港湾数	932	15	
国際戦略港湾	5	0	
国際拠点港湾	18	1	和歌山下津港
重要港湾	102	1	日高港
地方港湾	807	13	文里港、湯浅広港他
(うち特定地域振興重要港湾)	(13)	(1)	新宮港
(うち避難港)	(35)	(2)	由良港、勝浦港

(2025年4月現在)

クルーズ客船の寄港実績



また、94の漁港(内、県管理漁港7漁港)があり、流通拠点漁港が5漁港、生産拠点漁港が15漁港があります。その中で、阿尾漁港と有田漁港については避難漁港として位置付けられています。

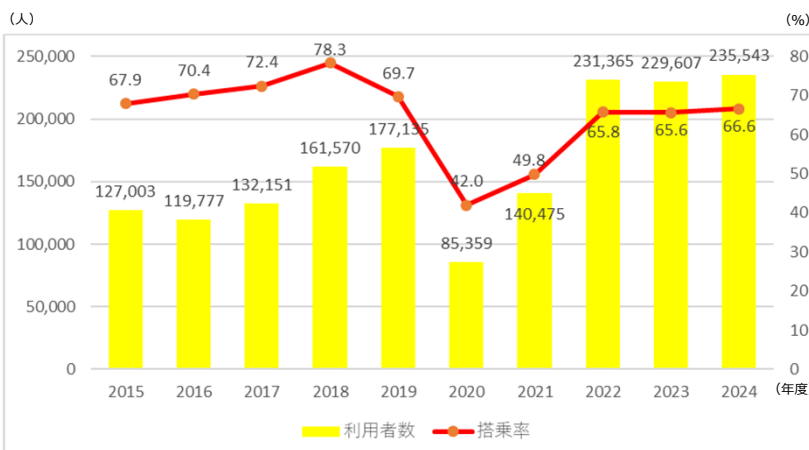
空港

熊野白浜リゾート空港(南紀白浜空港)は、和歌山県の空の玄関口として1968年に開港して以来、紀南地方を中心に産業、経済、文化の振興等、アクセス拠点として大きな役割を果たしています。

新たに完成した国際線ターミナルビルを活用し、2023年度にはベトナムや韓国からの国際チャーター便の受入れを行うとともに、2024年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定することで国内外からの多くの利用促進を図っています。

2024年度の利用者数は、過去最高を記録した2022年度の231,365人を更新する235,543人となりました。

年度別 搭乗者数・平均搭乗率の推移(2015年度～)



熊野白浜リゾート空港の概要

告示面積	741,000㎡
標高	89.4m
運用時間	8時30分から20時(11時間30分)
滑走路	長さ2,000m×幅45m (2000年9月延長供用開始)
エプロン	ジェット機用 3バース 小型機用 5バース
就航路線	熊野白浜リゾート空港⇄羽田空港 (1日3往復) 日本航空 B737-800 (165席)
駐車場	229台(有料) 315台(無料)
アクセス	JR白浜駅からバスで約20分 タクシーで約10分

4. 令和7年度当初予算における県土整備部の重点施策

防災・減災、県土の強靱化

【強靱で信頼性の高い道路ネットワークの構築】

能登半島地震の教訓を踏まえ、南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、半島防災の観点を新たに加え、道路ネットワークの強化や防災・減災対策を推進

【流域治水対策の推進】

気候変動による水害や土砂災害の激甚化、頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者が協働してハード、ソフト事業に一体的に取り組む「流域治水」を推進

【公共土木施設の老朽化対策】

橋梁やトンネル、河川、港湾施設など、今後急速に老朽化する社会インフラについて、点検、修繕を進めるとともに、長寿命化計画に基づく予防保全型の維持管理を推進

【住宅耐震化促進】

大規模地震発生時の住宅倒壊等による人的被害を軽減するため、住宅の耐震診断や設計、改修、津波避難困難地域から移転する際の住宅の除却等に対する助成を実施するとともに、耐震診断実施済みの方への個別相談や補強計画の提案等を支援

【津波から“逃げ切る！”ための堤防等の整備】

東海・東南海・南海3連動地震の津波避難困難地域における居住者の避難時間を確保するとともに、経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための対策として、港湾、漁港の防波堤等の改良、整備を実施

※半島防災について

・和歌山県が位置する紀伊半島をはじめ、半島地域は三方を海に囲まれ、急峻な傾斜地が多く、その地理的な特徴から災害が発生した際に速やかな支援が困難となる可能性が高くなっています。

・「半島防災」とは、このような半島地域における地理的特性を踏まえた防災対策です。

観光産業の強化

【熊野白浜リゾート空港利用促進】

羽田との4往復8便化や国際チャーター便の誘致等を行うとともに、滑走路延伸に向けた準備を促進

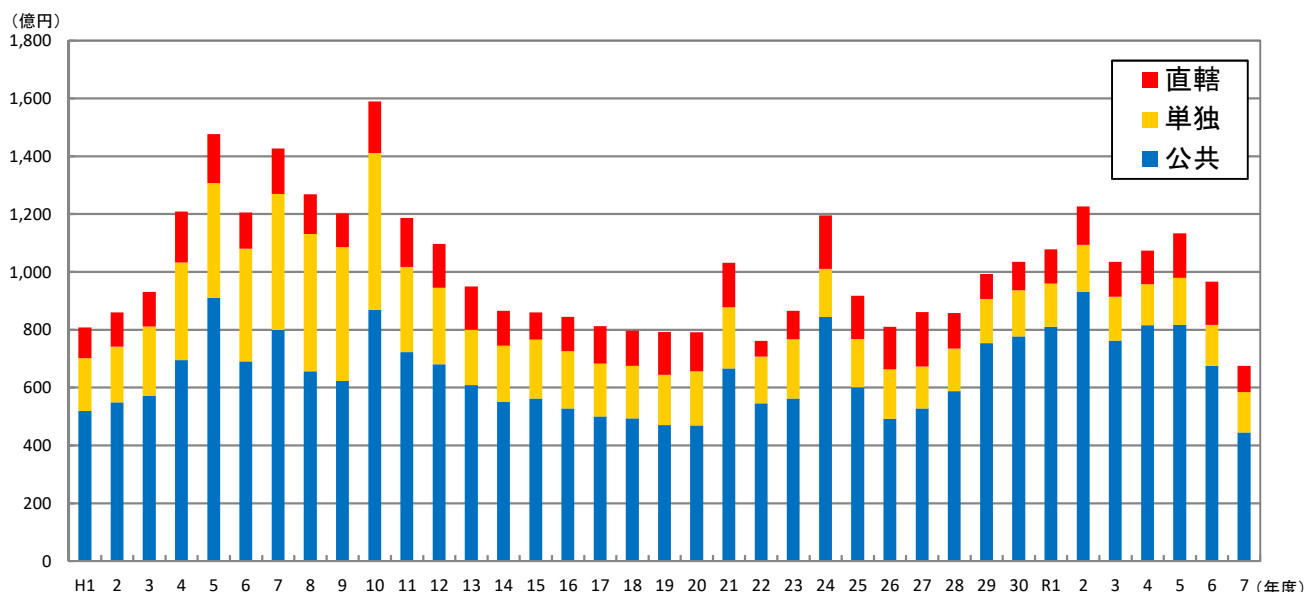
住みやすい、住みたいまちづくり

【空き家対策の促進】

県、市町村、学識経験者等が連携し、技術的な基準づくりや所有者等に対して相談会やセミナーの開催、専門家による相談窓口の設置など空き家等への対策を総合的に推進

5. 和歌山県 県土整備部所管 事業予算の推移

【県土整備部関係の投資的事業費及び維持修繕事業費の推移】



※R7については当初予算額。R6以前については補正予算含む。

※災害除く。市町村への補助金含む。

6. 国土強靱化の取組と効果

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」（2018～2020）や、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（2021～2025）などを活用し、県内各地において対策が着実に進み、その整備効果が確実に現れています。

【道路ネットワークの強化】

- 事業箇所
国道42号新宮紀宝道路 熊野川河口大橋（新宮市）
- 事業の概要
南海トラフ地震などの大規模災害時における通行機能確保や、医療機関への救急搬送時間の短縮を図るため、高速道路ネットワークを整備
- 効果
想定津波高より高い位置に道路を整備することで、災害時における通行機能を確保



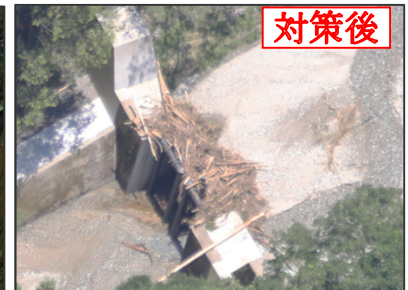
【流域治水対策】

- 事業箇所
住吉川（一級河川紀の川の支川）（岩出市）
- 事業の概要
治水安全度の向上を図るため、紀の川合流点付近から3,650m区間において、河道拡幅や河床掘削等により流下断面を確保
- 効果
住吉川流域では、1995年7月出水で29戸の床下浸水被害があったが、河川改修の効果により、同規模の雨量を記録した2023年6月の豪雨では浸水被害を防止



【砂防関係施設の長寿命化対策】

- 事業箇所
米の郷谷川（紀の川市）
- 事業の概要
流木捕捉機能の強化を図るため、1971年に整備された不透過型砂防堰堤の本体の損傷に対する補修、補強を行うとともに、砂防堰堤の水通し部を切り下げ、透過型鋼製砂防施設を設置
- 効果
2023年6月の豪雨では、流木対策施設が流木を捕捉し、下流の人家、市道、河川、橋梁等への被害を未然に防止



【港湾における津波対策】

- 事業箇所
由良港（由良町）
- 事業の概要
3連動地震による津波に対する浸水被害を軽減するとともに、由良港内に避難水域を確保するため、防波堤（北350m、南100m）を新規に整備
- 効果
防波堤（北）350m整備のうち約100mが早期に概成したことにより、津波による背後地への浸水被害、人的被害の軽減が図られるとともに由良港内の静穏度が向上。また、台風等の荒天時において、船舶の安全な避難が可能となる水域が拡大



一方、近い将来の発生が予測される南海トラフ地震や、気候変動に伴い激甚化、頻発化する気象災害に対する対策は、未だ道半ばとなっています。

こうした中、能登半島での地震とその後の大雨による災害の教訓を踏まえ、半島地域の発展と安全・安心の前提となる「半島防災」と「複合災害への備え」の観点を新たに加え、道路ネットワークの強化、港湾及び漁港の耐震岸壁等の整備、流域全体で水災害を軽減させる流域治水の推進等を進める必要があります。

県としては、「国土強靱化実施中期計画」に基づき、引き続き防災・減災、国土強靱化に向け取り組んでいきます。